



平成30年9月14日

各 位

会 社 名 株式会社ダイセキ  
代表者名 代表取締役社長 柱 秀貴  
(コード番号 9793 東証・名証第一部)  
問合せ先 企画管理本部長 片瀬 秀樹  
(電話番号 052-611-6322)

### 連結子会社の業績予想修正発表に関するお知らせ

本日、平成30年9月14日15時に当社の連結子会社であります株式会社ダイセキ環境ソリューション（コード番号1712）におきまして、添付資料のとおり「業績予想の修正に関するお知らせ」を発表いたしましたので、お知らせいたします。

しかしながら、当社の連結業績予想に関しては、主力事業であります産業廃棄物中間処理等が堅調に推移しており、株式会社ダイセキ環境ソリューションの下方修正部分に関してカバーが十分可能であると判断し、現時点で当社の連結業績予想を修正する予定はありません。

以 上



平成30年9月14日

各位

会社名 株式会社ダイセキ環境ソリューション  
 代表者名 代表取締役社長 二宮 利彦  
 (コード番号1712 東証・名証第一部)  
 問合せ先 企画管理本部長 珍道 直人  
 (電話番号 052-611-6350)  
 当社の親会社 株式会社 ダイセキ  
 代表者名 代表取締役社長 柱 秀貴  
 (コード番号9793 東証・名証第一部)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年9月14日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績動向等を踏まえ、平成30年4月5日に発表いたしました平成31年2月期（平成30年3月1日から平成31年2月28日まで）の第2四半期累計期間及び通期の業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

#### 1. 連結業績予想数値の修正

##### ① 平成31年2月期第2四半期累計期間連結業績予想数値の修正（平成30年3月1日～平成30年8月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり連結 四半期純利益
前回発表予想（A）	百万円 8,178	百万円 825	百万円 837	百万円 526	円 銭 31.32
今回修正予想（B）	7,800	590	590	360	21.40
増減額（B - A）	△378	△235	△247	△166	
増減率（％）	△4.6%	△28.4%	△29.5%	△31.5%	
（参考）前期中間実績 （平成30年2月期中間）	7,465	537	578	376	22.42

##### ② 平成31年2月期通期連結業績予想数値の修正（平成30年3月1日～平成31年2月28日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり連結 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 15,010	百万円 1,455	百万円 1,470	百万円 911	円 銭 54.16
今回修正予想（B）	14,640	740	730	440	26.16
増減額（B - A）	△370	△715	△740	△471	
増減率（％）	△2.4%	△49.1%	△50.3%	△51.7%	
（参考）前期実績 （平成30年2月期）	14,926	1,339	1,368	944	56.19



③ 平成31年2月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成30年3月1日～平成30年8月31日）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想（A）	百万円 7,386	百万円 656	百万円 459	円 銭 27.30
今回修正予想（B）	7,040	420	300	17.83
増減額（B - A）	△346	△236	△159	
増減率（％）	△4.6%	△35.9%	△34.6%	
（参考）前期中間実績 （平成30年2月期中間）	6,761	448	330	19.66

④ 平成31年2月期通期個別業績予想数値の修正（平成30年3月1日～平成31年2月28日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 13,390	百万円 1,110	百万円 777	円 銭 46.19
今回修正予想（B）	13,040	390	270	16.05
増減額（B - A）	△350	△720	△507	
増減率（％）	△2.6%	△64.8%	△65.2%	
（参考）前期実績 （平成30年2月期）	13,464	1,078	839	49.96

## 2. 修正の理由

当第2四半期連結結果計期間につきましては、土壌汚染調査・処理事業は、首都圏での東京五輪に向けての開発工事等が増加傾向にあり順調に推移しましたが、競合により想定していた受注単価が約10%程度下落した影響により、全体としては弱含みに推移しました。廃石膏ボードリサイクル事業は堅調に推移したものの、売上高は予想をやや下回りました。また、受注単価の下落を工場等におけるコスト削減でカバーできず、収支が悪化いたしました。

通期につきましては、受注単価が同様の水準で推移すると見込まれるとともに、建設中の工場の完成が早まり減価償却費等の費用増を予定しております。

その結果、第2四半期累計期間及び通期における売上高、営業利益、経常利益及び親会社に帰属する当期（四半期）純利益が、平成30年4月5日に公表しました業績予想を下回る見通しとなったため、業績予想を修正するものであります。

※上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上